

見方・考え方を働かせて

自律して学ぶことができる生徒を育成する実践研究

—社会科の複線型授業における「学び方ガイド」の提案—

教育実践高度化専攻 地域・教育課題解決コース ICT活用・科学ものづくり推進系

荒川 大樹

本研究は、中学校社会科の複線型授業において、生徒の「見方・考え方」を働かせ、自律して学ぶ姿を育む「学び方ガイド」を開発し、その有効性を検証した。本システムは自己調整学習サイクルに基づき、ポートフォリオ、考え方ガイド、復習プリントで構成される。第1次実践における不活用という課題に対し、第2次実践ではガイドの常時投影、教師による思考プロセスのモデリング、チェック連動型ガイドの導入といった改善を講じた。その結果、ガイドの活用実感は55.6%に向上し、活用群は記述課題および定期テストにおいて、非活用群に対し有意に高い成果を示した。記述課題とテストの間に強い正の相関が認められたことから、思考の構造化が知識の定着を促すことが実証された。ICTを活用した他者参照により自律的に学びを調整する姿も見られ、適切な足場かけが自律的学習者への変容を促進することが明らかとなった。今後は、学力下位層への適応的支援の充実と、支援を段階的に除去する手法の確立が課題である。